

理想的な 「入学前学習」を求めて

「入学前学習」は、本来しなくても済むことが理想的でしょう。学習のための準備はカリキュラムにもないですし、本来の業務から外れているかもしれません。在学生の教育に専念したい、というのが忙しい先生方の本音かと思います。しかし、現実問題として、専門学校、大学問わず、入学生の多様化などの影響で、勉強するための学力が足りていない、モチベーションが低い、机に座る習慣がない、という声があがっています。

そのような状況を受け、「入学前学習」の検討が進んでいます。ただもちろん入学前に何もかもを教えることはできませんし、取捨選択や手間が必要です。入学前の学生に何を学んでほしいか、どうなってほしいか、限られた時間と労力のなかで、学校としてどのようにかかわることができるのか。これらには明確な正解やルールがなく、学校それぞれで考えるしかありません。しかしこの試行錯誤こそ、理想的な学生像、理想的な教育像を考えることにつながるはず。

すでに取り組んでいる先生も、これから取り組もうという先生も、今特集が入学前学習、そして教育そのものを考えるきっかけとなれば幸いです。